

宮城県復興まちづくり通信

Vol.18

平成27年2月発行

宮城県土木部復興まちづくり推進室



トピック

1. 第11回 復興交付金申請状況について

平成27年1月23日、第11回目となる東日本大震災復興交付金事業計画が提出されました。

申請は、県と沿岸15市町で総額約931億円（事業費ベース）を申請しました。

主な内容は、下水道事業に約191億円、災害公営住宅整備事業に約127億円、土地区画整理事業に約93億円、道路事業に約80億円、漁業集落防災機能強化事業に約53億円となっています。（事業費ベース）

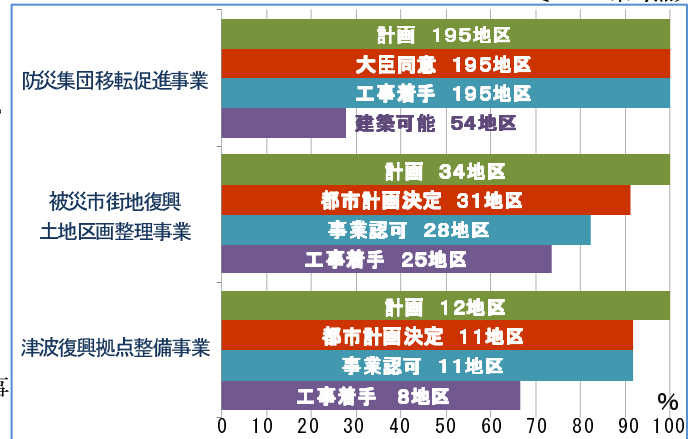
2. 復興まちづくり事業の進捗状況について

防災集団移転促進事業については、計画地区数**195地区**の全地区において事業計画の大臣同意を得ており、工事着手は**195地区（100%）**、住宅等建築可能地区は**54地区（約28%）**となっています。

被災市街地復興土地区画整理事業については、計画地区数**34地区**のうち、**31地区（約91%）**で都市計画決定がなされ、事業認可は**28地区（約84%）**、工事着手は**25地区（約74%）**となっています。

津波復興拠点整備事業については、計画地区数**12地区**のうち、**11地区（約92%）**で都市計画決定がなされ、事業認可地区数は**11地区（約92%）**、工事着手は**8地区（約67%）**となっています。

各事業の進捗状況 [H27.1末時点]



3. 災害公営住宅の進捗状況及び住宅団地整備と仮設住宅の入居状況

市町が整備を進めている住宅団地整備計画は、表のとおり、災害公営住宅と自主再建住宅を合わせると住宅団地整備計画戸数は、約26,000戸となります。

災害公営住宅は、平成27年1月末時点での整備計画戸数**15,484戸**のうち**21市町231地区**、**13,487戸（87%）**に事業着手、うち**21市町168地区9,004戸（58%）**が建築工事に着手しており、**18市町72地区で2,692戸（17%）**が完成しています。

そのうち整備が完了し、既に災害公営住宅に入居開始あるいは防集宅地に住宅建築済み世帯が約2,000世帯となっています。

一方で、仮設住宅等に避難されている世帯は、今なお約29,700世帯となっている状況（H27.1末）であり、震災後、仮設住宅等に避難されている方々のうち、各々の事情により意向を固めきれず、仮設住宅にとどまっている被災者は少なくありません。どこで住まいを再建するか決めかねている被災者に対し、県と市町の関係部局が連携を図りながら、仮設住宅から恒久住宅への入居が円滑に進むよう支援していくことが重要となっています。

なお、災害公営住宅を含めた宅地供給のピークは、平成27年度及び平成28年度となる見込みです。

◆住宅団地整備計画(戸)

団地造成事業種別	整備戸数
災害公営住宅	15,484
土地区画整理事業	4,002
津波復興拠点整備事業	494
防災集団移転促進事業	3,312
漁業集落防災機能強化事業	2
単独施工	7,674
自主再建住宅	10,419
防災集団移転団地	6,936
開発行為	3,681
土地区画整理事業	2,820
津波復興拠点整備事業	435
土地区画整理事業(個人換地)	3,448
漁業集落防災機能強化事業	35
合計	25,903

4. 住宅・社会資本 再生・復興フォーラムが開催されました。

～住宅・社会資本 再生・復興フォーラム～ 【プログラム】

【第一部】
宮城県土木部技術研究発表会 「東日本大震災特別発表会」
① 3.11伝承・減災プロジェクトについて <宮城県土木部 防災砂防課>
② 長沼ダム建設事業について <宮城県土木部 河川課>
③ 日中韓三国地方政府防災交流会議について <宮城県土木部 復興まちづくり推進室>
④ 野蒜北部丘陵地区の復興まちづくりについて <東松島市>
⑤ 気仙沼市の復興まちづくりについて <気仙沼市>
【第二部】
【報告】
「宮城県における復旧・復興の取組と進捗状況」宮城県土木部次長
【基調講演】
1 「先進事例に学ぶ復興—中越から10年、阪神から20年—」 一般社団法人 減災・復興支援機構 理事長
2 「国土のグランドデザインと今後の社会資本整備のあり方」 国立大学法人 豊橋技術科学大学 学長・日本学術会議 会長

平成27年2月3日に「平成26年度宮城県住宅・社会資本 再生・復興フォーラム」が開催されました。東日本大震災から3年10カ月が経過し、沿岸部の復旧・復興事業が本格化していますが、新たなコミュニティ形成やその持続的維持、地域経済を支える産業の再生や雇用創出などの新たな課題が顕著化してきました。

こうしたことから、阪神・淡路大震災からの復興を成し遂げた被災経験地の取組や教訓などを学ぶとともに、持続可能な県土づくりに向け、中長期的な視点から社会資本整備の役割やあり方などについての提言をいただくため、本フォーラムが開催されました。

第1部は、「技術研究発表会」、第2部は、本県からの報告と基調講演が行われました。復興まちづくり推進室からは、昨年11月、「日中韓地方政府における防災教訓の共有」をテーマに韓国仁川広域市で開催された「日中韓三国地方政府防災交流会議」に参加し、発表した内容や会議の概要などの報告を行いました。また、東松島市からは「野蒜北部丘陵地区の復興まちづくりについて」、気仙沼市からは「気仙沼市の復興まちづくりについて」と、これまでの経緯や現在の状況などについて発表していただきました。〔主催：宮城県、宮城県建設技術協会〕



技術研究発表会の様子

市町からのたより

1. 気仙沼市 災害公営住宅第1号「南郷住宅」が完成しました！

気仙沼市内28地区で約2,200戸の災害公営住宅を計画しており、その第1号として、集合住宅タイプの「南郷住宅」が完成し、1月から入居が始まりました。



南郷住宅(2・3号棟)

南郷住宅には3棟計165戸を建設予定ですが、そのうち、先工区(2・3号棟)75戸が完成し、後工区(1号棟)90戸が本年3月に完成予定となっています。

また、階上地区の戸建タイプ20戸も本年3月に完成予定であり、平成27年度内に約1,050戸の災害公営住宅が完成するよう工事を進めています。



入居式テープカットの様子

気仙沼市 建設部災害公営住宅整備課

2. 南三陸町 「グランドデザインの具現化」(仮称)中橋の意匠・詳細設計の発表が行われました。

南三陸町志津川の中心市街地における「グランドデザイン」は、世界的にも著名な建築家の隈研吾氏により作成され、昨年5月にその報告会が開催されたところでした。

「グランドデザイン」のコンセプトの一つに、街と復興祈念公園をつなげる(仮称)中橋を、復興の象徴となる“木の橋”で復元することが提案され、その具現化に向け、隈研吾氏が意匠を手掛けておりました。

中橋は津波により全壊したのですが、震災前は八幡川に架かっていた橋で、四季折々に様々なイベントが中橋を中心に開催されていたこともあり、町民にとっても親しみを持たれていた橋でした。

この度、中橋上部工の意匠を含む詳細設計について、隈研吾建築都市設計事務所の担当者から志津川まちづくり協議会へ発表(平成27年1月20日)がありました。担当者からは、「元々の中橋に対する町民の思いや橋の形などを意識してデザインした」との説明がありました。



(仮称)中橋の完成イメージパース

南三陸町 復興市街地整備課

3. 女川町 新しい女川駅周辺の“まちびらき”を実施します！

平成26年12月8日に女川町とJR東日本仙台支社が共同で記者発表を行ない、新しい女川駅周辺のまちびらきとJR石巻線の全線運転再開を平成27年3月21日に実施します。

駅と温泉の併設施設（女川温泉ゆぽっぽ）、駅前広場等の供用開始に向けて、現場は急ピッチで工事を進めています。またJRも2月より試運転を開始し、一足早く新しく敷かれた線路を車両が走りはじめました。

3月のまちびらきの後は、駅周辺の建築工事が本格化していきます。運転再開の際は、ぜひ石巻線に乗って、新しい女川の中心部に足を運んでみてください。

女川町 復興推進課



試運転が始まったJR石巻線(女川駅)

4. 東松島市 東矢本駅北地区など2地区の災害公営住宅が新たに完成！

東松島市では、16地区に災害公営住宅整備を計画しており、平成26年4月1日に5地区254戸が完成・入居。今回、新たに2地区の災害公営住宅が完成し入居を開始しました。初めに、あおい（東矢本駅北）住宅の第I期分として、平成26年11月15日に47戸が入居を開始。年が明け平成27年1月20日には、町浦（矢本東保育所移転跡地）住宅で20戸の入居が始まりました。これで、本市の平成26年度までの整備計画上の321戸全てが完成した上、入居状況も良好で320戸の入居が確定しており、入居率99.7%とほぼ満室の状況です。

平成27年度では9地区336戸の災害公営住宅整備を計画しており、被災者の方々の1日でも早い入居を目指し、整備を進めてまいります。

東松島市 建設部建設課



市営町浦住宅
(矢本東保育所移転跡地)

5. 塩竈市 雨水対策強化へ、シールドマシン発進！

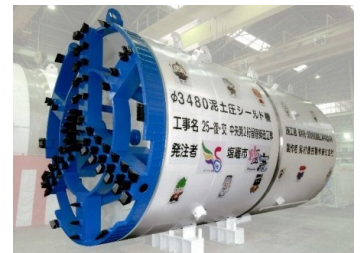
塩竈市では、震災により地盤沈下の著しい港町・尾島町・新富町地区の雨水排水機能を向上させるため、国道45号線の地下に雨水貯留施設（中央第2貯留管：内径3,000mm、延長1.3km）の工事を進めております。

このたびシールドマシン（トンネル掘削機）が完成し現場に搬入されましたが、地下に入ってしまうと見る事が出来なくなることから、シールドマシンのお披露目と併せ、沿線住民の皆さんに下水道工事への理解をより深めてもらうために、工事見学会を開催しました。

シールドマシンは、地下15mの立坑内で組み立て、本年1月に発進しました。

市では、中央第2貯留管築造工事の他、ポンプ施設（中央第2ポンプ場）と既設の中央ポンプ場からの排水を円滑に行うための排水路（中央放流渠）を整備し、当該地区の生活環境改善を図ってまいります。上記工事は、平成28年3月の完成を目指して作業を進めております。

塩竈市 建設部下水道課建設係 中川 司（宮城県派遣職員）



使用されるシールドマシン

6. 岩沼市 嵩上道路(堤防道路)の整備

岩沼市では、震災からの復旧・復興・発展に向けて4つのリーディングプロジェクトを定めています。その1つ『減災を基本とした安全・安心なまちづくり』を推進するために、津波対策として嵩上道路の整備を進めています。

東日本大震災では市域の約48%が津波により浸水するという甚大な被害を受けました。そのエネルギーの凄まじさから、市では大自然の力を完全に防御するのではなく、災害時の被害をいかに最小限に食い止めるかという『減災』の考え方を基本とし、太平洋側（東側）から①国の海岸堤防（TP7.2m）、②市の千年希望の丘、③県の貞山運河堤体（TP3.7m）、④市の嵩上道路（TP5.0～4.0m）による『多重防御』で、津波の威力を減衰させる計画です。

嵩上道路は延長7.2km、幅員11.5m、盛土57万m³を使用します。工事は平成26年1月に着手し、計画高までの嵩上げが完了した区間もあります。現在、河川部の橋梁工事や幹線排水路の函渠工事を進めており、事業全体の進捗率は約30%となっています。

市では、被災者の方々が少しでも早く安全に安心して生活できるよう、『スピード感』を合言葉に、平成27年度内の供用開始に向け、鋭意取り組んでいるところであります。

岩沼市 建設部土木課建設係 重松 隆信（福岡県福岡市派遣職員）



嵩上げ道路の施工状況

復興まちづくり推進室からのお知らせ

第3回 国連防災世界会議の開催について



平成 27 年 3 月 14 日から 18 日の 5 日間にわたって、第 3 回国連防災世界会議が仙台市で開催されます。

国連防災世界会議は、国際的な防災戦略について議論する国際連合（国連）主催の会議であり、第 3 回目となる今回は、東日本大震災の被災地である仙台市で開催することとなり、被災地の復興を世界に発信するとともに、防災に関する日本の経験と知見を国際社会と共有し、国際貢献することを目指します。

本体会議は、仙台国際センターで行われますが、関連して開催されるパブリックフォーラムでは、シンポジウム、セミナー、展示会などが各所で行われます。

宮城県土木部関連のパブリックフォーラムでは、

- ①「2015 下水道防災シンポジウム in 仙台」
 - ・日程：平成 27 年 3 月 17～18 日、
 - ・会場：シンポジウム 仙台市情報・産業プラザ（AER）6 階セミナーホールほか
施設見学会 仙台市南蒲生浄化センター・宮城県仙塩浄化センター
- ②「東日本大震災からの多重防衛によるまちづくり」
 - ・日程：平成 27 年 3 月 16 日
 - ・会場：シンポジウム 仙台市情報・産業プラザ（AER）21 階 TKP ガーデンシティ仙台
- ③「『あの日』から、土木技術者がしたこと」
 - ・日程：ブース展示 平成 27 年 3 月 14 日～18 日
シンポジウム 平成 27 年 3 月 16 日
 - ・会場：ブース展示 せんだいメディアテーク 5・6 階ギャラリー
シンポジウム 宮城県庁 2 階講堂（パネル展示 宮城県庁第二入札室）
- ④被災建築物応急危険度判定等に関する展示
 - ・日程：ブース展示 平成 27 年 3 月 14 日～18 日
 - ・会場：ブース展示 せんだいメディアテーク 5・6 階ギャラリー
- ⑤「東北防災・復興パビリオン」プレゼンステージ
「津波浸水表示板設置事業（3.11 伝承減災プロジェクト）について」「宮城県における災害に強いまちづくりについて」
 - ・日程：平成 27 年 3 月 14 日～18 日
 - ・会場：せんだいメディアテーク 1 階

上記が開催され、復興まちづくり推進室では、せんだいメディアテークにて、これまで宮城県が取り組んできた「災害に強いまちづくり」を国内外に発信します。（3月18日 午後1時から開催）

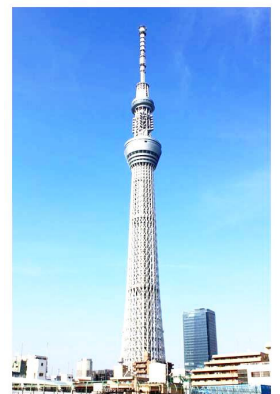
東京スカイツリーにおける復興まちづくりパネル展の開催について



東日本大震災から 4 年が経過する 3 月 6 日から 12 日に、東武タワースカイツリー(株)の協力をいただいて、東京スカイツリー 5 階展示スペースにて、国内外の皆様へ向け「震災記憶の風化防止」「継続的支援の必要性」「これまでの支援に対する感謝」の意を込めて、県庁内関係各課及び被災市町と連携し、各種展示物やパンフレットなどで PR します。

復興まちづくりの状況のほか、沿岸地域の観光についても幅広く周知することで、観光交流人口の拡大も期待されます。

～みやぎの復興まちづくり
復興の花を咲かせよう～



〇問い合わせ先 宮城県土木部復興まちづくり推進室
〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8-1
e-mail fukumachi@pref.miyagi.jp
TEL.022(211)3207 FAX.022(211)3295
HP <http://www.pref.miyagi.jp/fukumachi/>

復興加速



復興実感

がんばるっちゃ!
宮城県土木部